

事 項	りんごに発生するヨモギエダシャク幼虫の薬剤感受性																																			
ね ら い	平成11年、津軽地方各地のりんご園でヨモギエダシャクが多発した。幼虫に対する各種殺虫剤の感受性が明らかになったので、参考に供する。																																			
指 導	<p>1 幼虫の薬剤感受性</p> <p>青森県の「りんご病害虫防除暦」でハマキムシ防除剤及びモモシクイガ防除剤として取り上げられている殺虫剤の、常用濃度での本種幼虫に対する効果を検討した。</p> <p>従来、本種に有効とされていたスミチオン水和剤800倍、サイアノックス水和剤1,000倍、スプラサイド水和剤1,500倍、マイクロデナポン水和剤1,200倍、スカウトフロアブル2,000倍の効果は著しく低下していた。</p>																																			
参 考 内 容	<p>2 ヨモギエダシャクに対する薬剤の有効性</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬 剤 名</th> <th>使用倍数</th> <th>殺虫効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スミチオン水和剤</td> <td>800倍</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>ダイアジノン水和剤</td> <td>1,000</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>エルサン水和剤</td> <td>1,000</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ダーズバン水和剤</td> <td>1,000</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>スプラサイド水和剤</td> <td>1,500</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>サイアノックス水和剤</td> <td>1,000</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>マイクロデナポン水和剤</td> <td>1,200</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>モスピラン水溶剤</td> <td>4,000</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>スカウトフロアブル</td> <td>2,000</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>スカウト以外のピレスロイド剤</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ○：効果あり、×：効果なし</p>			薬 剤 名	使用倍数	殺虫効果	スミチオン水和剤	800倍	×	ダイアジノン水和剤	1,000	×	エルサン水和剤	1,000	○	ダーズバン水和剤	1,000	×	スプラサイド水和剤	1,500	×	サイアノックス水和剤	1,000	×	マイクロデナポン水和剤	1,200	×	モスピラン水溶剤	4,000	×	スカウトフロアブル	2,000	×	スカウト以外のピレスロイド剤	—	○
薬 剤 名	使用倍数	殺虫効果																																		
スミチオン水和剤	800倍	×																																		
ダイアジノン水和剤	1,000	×																																		
エルサン水和剤	1,000	○																																		
ダーズバン水和剤	1,000	×																																		
スプラサイド水和剤	1,500	×																																		
サイアノックス水和剤	1,000	×																																		
マイクロデナポン水和剤	1,200	×																																		
モスピラン水溶剤	4,000	×																																		
スカウトフロアブル	2,000	×																																		
スカウト以外のピレスロイド剤	—	○																																		
期待される効果	有効薬剤の選択が可能となり、効率的防除ができる。																																			
利用上の注意事項	<p>1 第一世代幼虫は6月下旬～7月、第二世代幼虫は8月下旬～9月に発生する。</p> <p>2 シャクトリムシ類に登録のある有効薬剤はない。</p> <p>3 発生が多い園地では有効薬剤を選択し、他の害虫との同時防除を図る。</p> <p>4 第二世代幼虫の防除に当たっては適正使用基準(年間使用回数、収穫前日数)に特に注意する。</p>																																			
担 当	青森県りんご試験場 病虫肥料部	対 象 地 域	県下全域																																	
発 表 文 献 等																																				

【根拠となった主要な試験結果】

表1 板柳町産ヨモギエダシヤク幼虫の薬剤感受性

(平成11年 青森りんご試)

供試薬剤名	倍数	小型個体(2~4齢)				大型個体(4~6齢)			
		供試虫数	摂食程度	死虫率(%)		供試虫数	摂食程度	死虫率(%)	
				3日後	5日後			1日後	4日後
スミチオン水和剤	800	13	++	46.2	46.2	11	+++	0	9.1
ダイアジノン水和剤	1,000	14	+++	6.7	7.1	14	+++	0	0
サイアノックス水和剤	1,000	15	++	20	40	14	+++	0	0
ダーズバン水和剤	1,000	15	+++	0	0	16	+++	0	6.3
エルサン水和剤	1,000	14	+	100		16	++	37.5	62.5
スプラサイド水和剤	1,500	14	++	28.6	28.6	12	+++	0	0
ミクロデナポン水和剤	1,200	15	+++	0	0	14	+++	0	7.1
モスピラン水溶剤	4,000	15	+++	0	13.3	15	+++	0	13.3
パーマチオン水和剤	1,000	17	-	100		14	-	100	
アディオオン水和剤	2,000	15	-	100		14	-	100	
アグロスリン水和剤	1,000	18	-	100		16	-	100	
スカウトフロアブル	2,000	14	+	57.1	85.7	14	++	7.1	14.3
サイハロン水和剤	2,000	15	+	60	86.7	15	±	60	80
バイスロイドEW	2,000	18	-	100		17	+	47.1	94.1
テルスター水和剤	1,000	16	-	100		12	+	58.1	91.7
ロディー水和剤	1,000	17	+	82.4	94.1	15	-	100	
展着剤(新リノー)	5,000	18	+++	0	11.1	14	+++	0	0

注1) 摂食程度：-；なし、±；微少、+；少、++；中、+++多

2) 試験方法：展着剤加用の薬液にりんご新梢を浸漬し、風乾後、処理薬と幼虫をタッパーに収容。
幼虫は現地りんご園(慣行防除)から8月下旬に採集し、8月下旬に薬液処理。

表2 藤崎町産ヨモギエダシヤク幼虫の薬剤感受性

(平成11年 青森りんご試)

供試薬剤名	倍数	小型個体(2~4齢)				大型個体(4~6齢)			
		供試虫数	摂食程度	死虫率(%)		供試虫数	摂食程度	死虫率(%)	
				3日後	5日後			1日後	4日後
スミチオン水和剤	800	7	-	100		8	++	25	25
ダイアジノン水和剤	1,000	6	++	33.3	66.7	9	+++	22.2	22.2
サイアノックス水和剤	1,000	7	+	42.9	57.1	9	+++	11.1	11.1
ダーズバン水和剤	1,000	8	+++	25	25	9	+++	0	0
エルサン水和剤	1,000	7	±	100		8	+	62.5	62.5
スプラサイド水和剤	1,500	8	++	25	50	8	+++	12.5	25
ミクロデナポン水和剤	1,000	6	++	33.3	33.3	9	++	33.3	33.3
スカウトフロアブル	2,000	5	+	20	40	8	+++	0	0
テルスター水和剤	1,000	8	-	100		8	-	37.5	87.5
展着剤(新リノー)	5,000	6	+++	0	16.7	8	+++	0	0

注1) 摂食程度：-；なし、±；微少、+；少、++；中、+++多

2) 試験方法：展着剤加用の薬液にりんご新梢を浸漬し、風乾後、処理薬と幼虫をタッパーに収容。
幼虫はりんご試ほ場(慣行防除)から9月上旬に採集し、9月上旬に薬液処理。